経営比較分析表（令和6年度決算）

埼玉県　蕨市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	**自己資本構成比率(%)**	**普及率(%)**	**1か月20m³当たり家庭料金(円)**	
-	81.12	100.00	2,475	

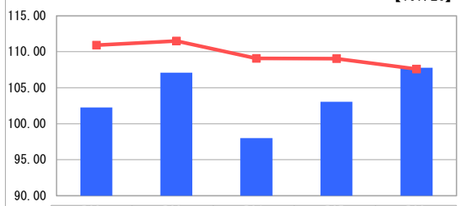
人口（人）	面積(km²)	人口密度(人/km²)
76,342	5.11	14,939.73
現在給水人口(人)	**給水区域面積(km²)**	**給水人口密度(人/km²)**
76,357	5.11	14,942.66

グラフ凡例
- ■ 当該団体値（当該値）
- ― 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性

①経常収支比率(%)

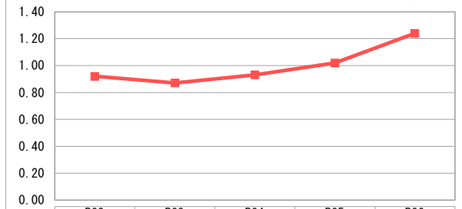
【107.26】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	102.27	107.10	98.00	103.06	107.78
平均値	110.91	111.49	109.09	109.05	107.61

②累積欠損金比率(%)

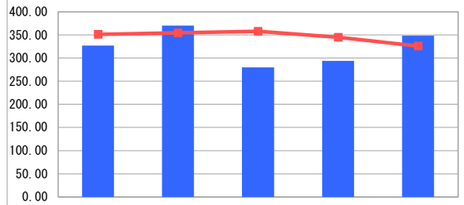
【1.61】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
平均値	0.92	0.87	0.93	1.02	1.24

③流動比率(%)

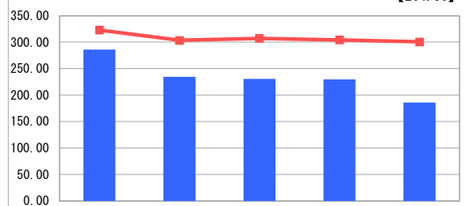
【239.69】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	327.13	370.12	279.58	293.97	348.29
平均値	350.79	354.57	357.74	344.88	326.02

④企業債残高対給水収益比率(%)

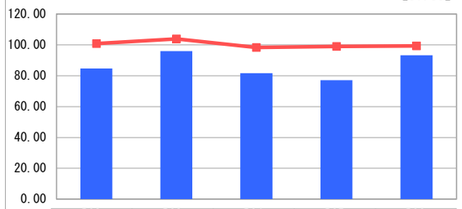
【264.86】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	285.94	234.46	230.49	229.52	186.00
平均値	322.92	303.46	307.28	304.02	300.54

⑤料金回収率(%)

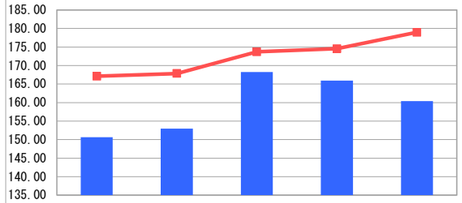
【97.59】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	84.71	95.97	81.70	77.12	93.21
平均値	100.85	103.79	98.30	98.89	99.25

⑥給水原価(円)

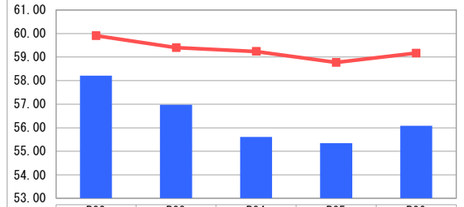
【181.66】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	150.66	152.98	168.26	165.90	160.38
平均値	167.10	167.86	173.68	174.52	178.92

⑦施設利用率(%)

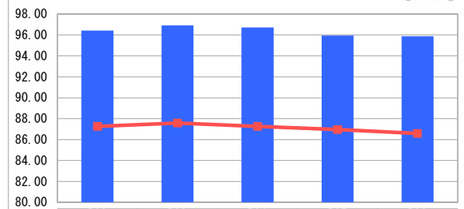
【60.21】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	58.21	56.98	55.61	55.35	56.08
平均値	59.91	59.40	59.24	58.77	59.17

⑧有収率(%)

【89.21】

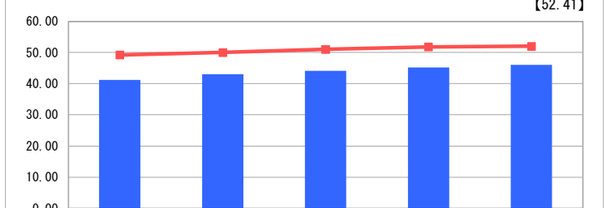


	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	96.41	96.91	96.70	95.94	95.87
平均値	87.26	87.57	87.26	86.95	86.58

2. 老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率(%)

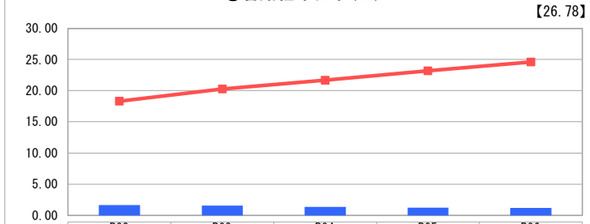
【52.41】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	41.18	43.04	44.12	45.19	46.01
平均値	49.20	50.01	50.99	51.79	52.02

②管路経年化率(%)

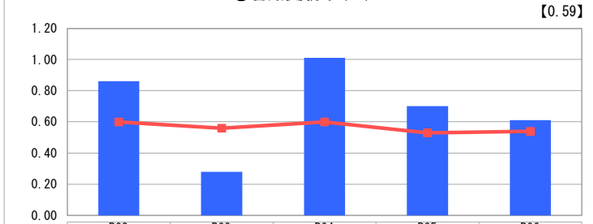
【26.78】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	1.66	1.58	1.36	1.25	1.21
平均値	18.33	20.27	21.69	23.19	24.61

③管路更新率(%)

【0.59】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	0.86	0.28	1.01	0.70	0.61
平均値	0.60	0.56	0.60	0.53	0.54

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「①経常収支比率」は、昨年度まで類似団体平均を下回っていたのに対し、今年度は同等まで回復した。主な要因は、給水人口の増加や経済活動の回復による給水収益の増加、並びに受水費及び資産減耗費の減少である。

「②累積欠損金比率」は0%を継続し、「③流動比率」は3年ぶりに類似団体平均以上に回復したが、これは年度内完成工事の翌年度払いというケースが例年より少なかったためである。

「④企業債残高対給水収益比率」は、近年の借り入れ抑制による企業債残高の減少により、年々減少しているが、今年度特にその幅が大きくなった。主な要因は、前年度は基本料金無料化を4か月実施していたことで給水収益が例年に比べて特に減少していたためである。

「⑤料金回収率」は、給水収益の増により前年度より増加はしているものの今年度も100%を下回っており、分担金など給水収益以外の収益で賄っている状態が継続している。

「⑥給水原価」は、給水人口密度が高いことから効率的な給水を実施できており、類似団体平均よりも大幅に低い状況にある。

「⑦施設利用率」は、今後も配水量増加を見込み難い状況にあり、施設更新時には適切な施設能力を見極め、ダウンサイジングを検討する必要がある。

「⑧有収率」は、漏水調査や老朽管更新への積極的な投資により、直近5年間で95%以上の高水準で推移しており、全国・類似団体平均を大きく上回っている。

2. 老朽化の状況について

「①有形固定資産減価償却率」は46%程度となっており、類似団体平均と比べて施設の老朽度合いが低い状況にあり、健全性が保たれている。

「②管路経年化率」は管路の更新事業も進めていることから健全性が高く保たれており、直近5年間で類似団体平均値と比較すると、令和2年度時点で既に1/10以下であり、以降についても、類似団体の平均値が年々増加する一方で、当団体は一貫して減少させることができている。

「③管路更新率」は、令和3年度から4年度へ大規模な繰越工事が多数あったため、この2年度については合計で比較すると、継続して類似団体平均以上のペースで更新できていると評価できる。

全体総括

経営の健全性及び効率性に係る指標を分析すると、蕨市の経営状況はおおむね健全な状態であるといえる。

しかし、事業を取り巻く環境としては、将来的には人口減少や少子高齢化などによる水需要の減少が想定される中で、経年化施設の更新や大規模災害に対する応急給水・応急復旧の整備を適切に履行していく必要がある。

このような状況の中、蕨市水道事業ビジョンに基づき、主要管路の耐震化や水道施設の長寿命化、応急給水体制の整備などを計画的に行っている。併せて財政状況についても、企業債残高の低減など健全経営に向けた取組を推進し、引き続き『将来にわたって健全な水道』の更なる強化を図っていく。